

第18回 徳島県芸術祭主催行事

第39回 徳島県美術展

第1期 11月10日(土)→15日(木)

第2期 11月17日(土)→21日(水)

徳島県郷土文化会館

主催

徳島県美術家協会・徳島県教育委員会・徳島新聞社・徳島県芸術祭執行委員会



第2期 第

1

期

書道

デザイン

美術工芸

彫塑

写真

洋画

日本画

写真



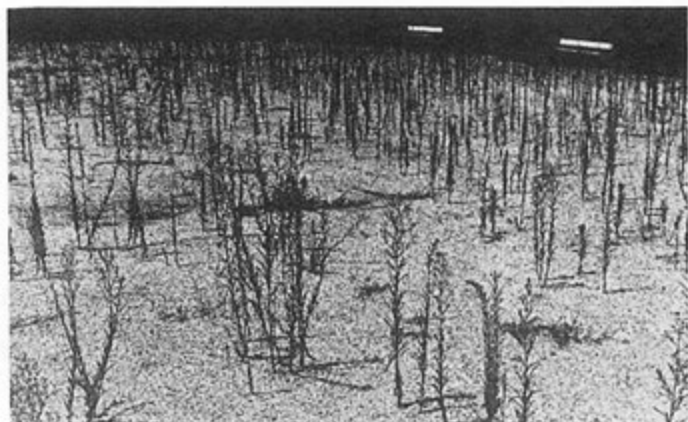
招待 紫陽花の咲く頃 福島正仁



招待 ファイヤーストーム 増田清次



招待 舞妓 勝西雅夫



招待 幽寂 井上光雄



招待 遠花火 西條征二



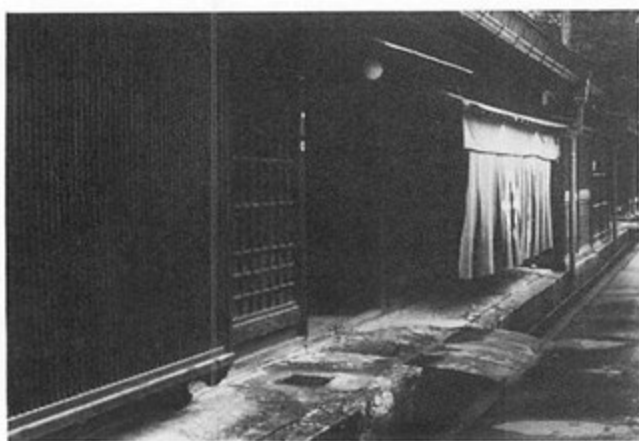
招待 虹 木田英之



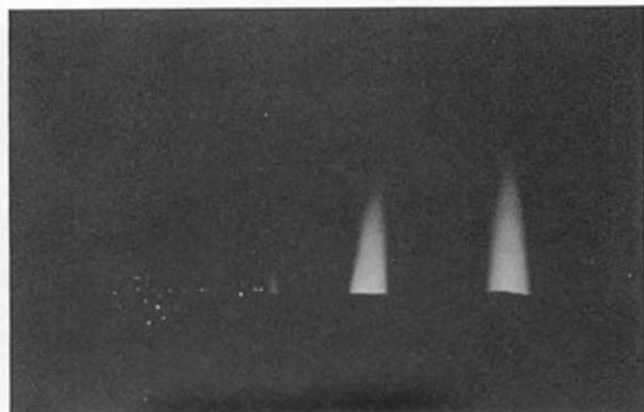
招待 紅葉 笹田敏雄



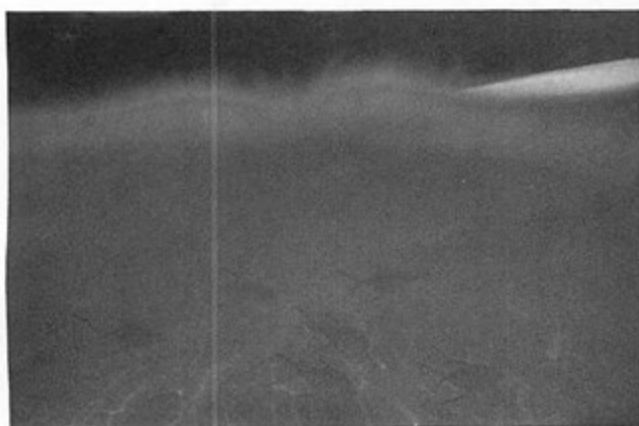
招待 白い午後 藤井 梵



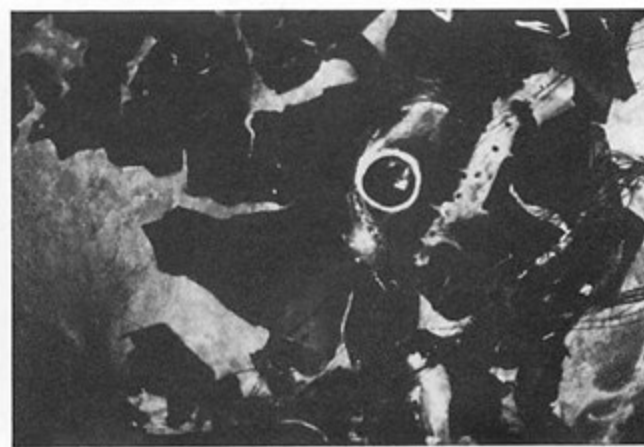
招待 高山三之町 櫛渕 魏



招待 窯火 武内 亨



招待 楽園 (III) 三好和義



招待 古面 酒井博司



無鑑査 雪の日 前浦芳久



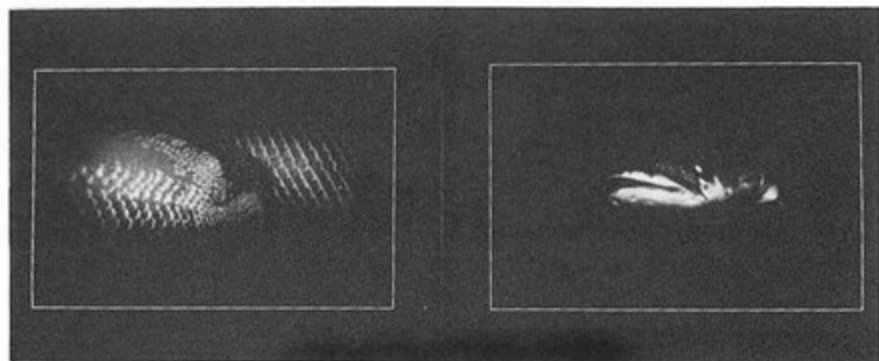
無鑑査 怒り 田村泰弘



特選 けし 森 賢一



無鑑査 潮騒 林 敏彦



特選 怪魚 上野照文



特選 からす 荒井賢治



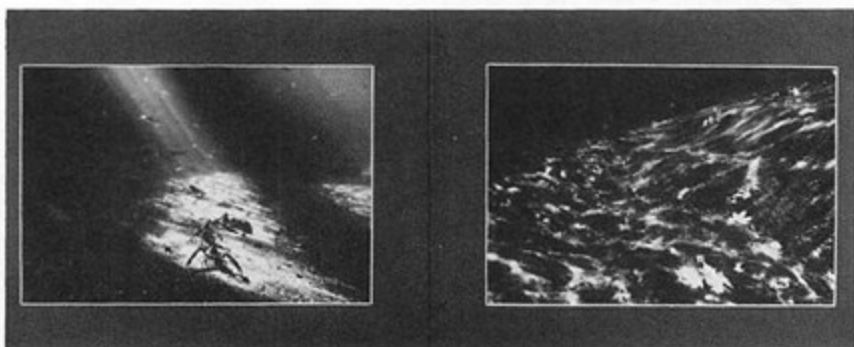
特選 一日 尾崎利男



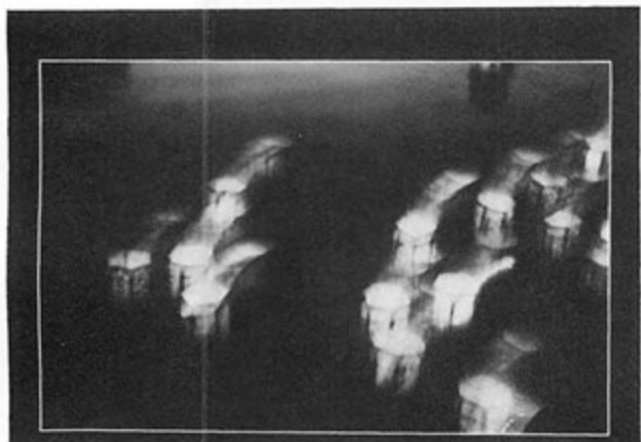
特選 ヒコーキ雲 富永章子



特選 神秘的な瞳 橋本圭裕



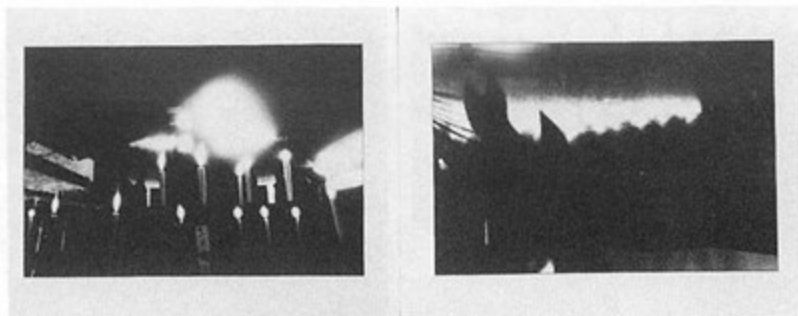
特選 光景 前浦正広



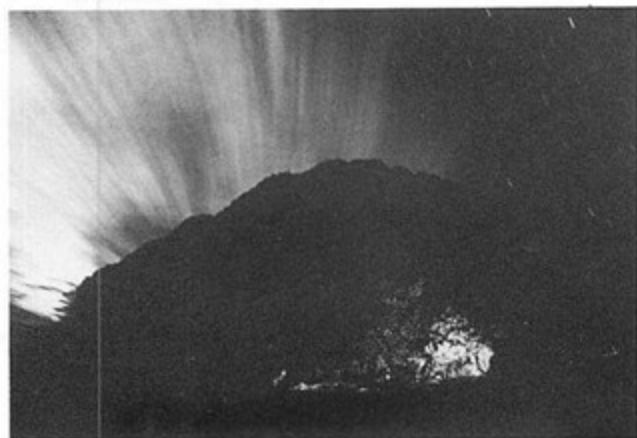
準特選 精霊流し 上野照文



特選 茶毘 森 卓史



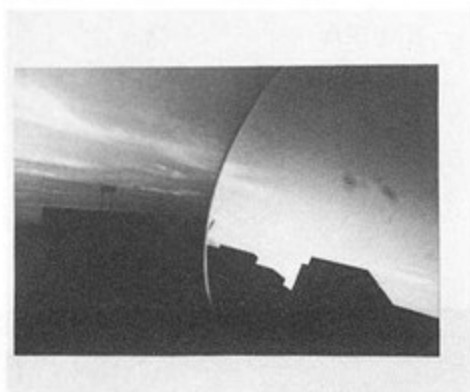
準特選 祈願 古井謙吉



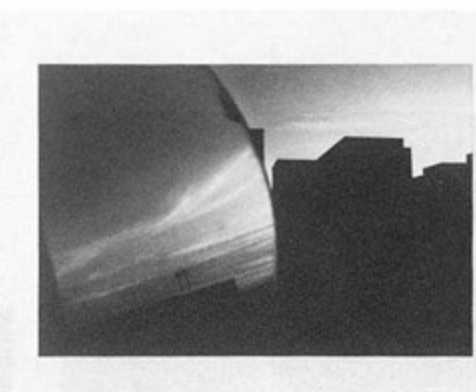
準特選 夜 小松 豊



準特選 阿波踊り幻想 安長 剛



準特選 反映 堀渕完治



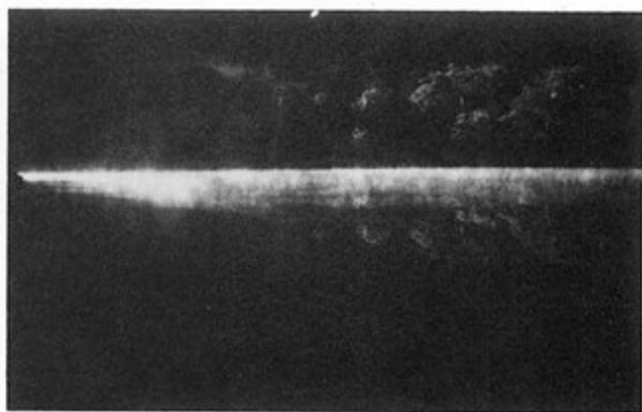
準特選 凶日 荒井賢治



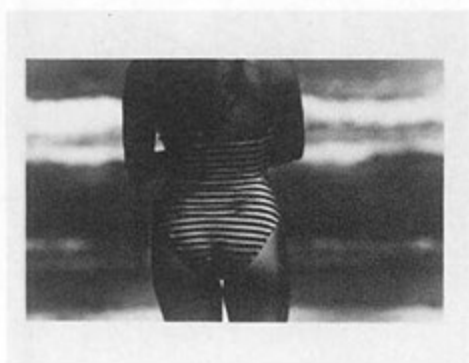
準特選 夜の駅 長谷 進



準特選 寸景 前坂祥文



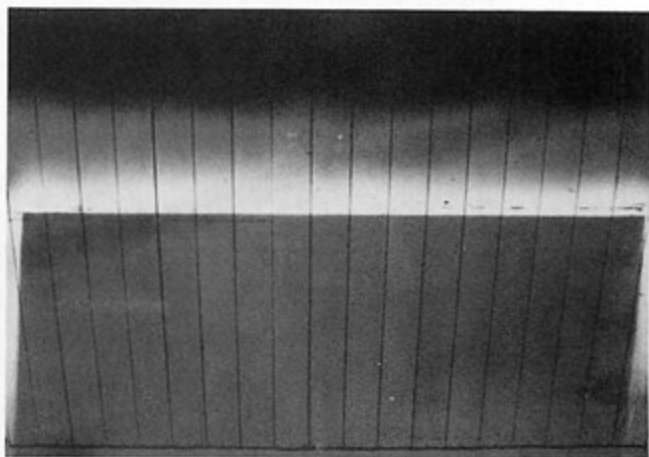
準特選 湖の朝 田中昭男



準特選 女 和田俊彦



準特選 子役者 逢坂 登



準特選 ブルーコンストラクション 宮城高士

ヒ	光	一	か	神	け	怪	△	潮	雪	怒	△	楽	古	高	紅	窯	白	舞	遠	幽	フ	紫	△
コ				秘			特		の		鑑	園	山	山			い		花	虹	アイ	陽	招
ー			ら	な							査	(III)	三	三	之	火	午		寂	ヤー	花	の	待
キ												面	酒	町	葉	後	後	火	寂	ス	の	頃	△
雲	景	日	す	瞳	し	魚	選	騷	日	り	△	三	櫛	武	藤	勝	西	木	井	増	福		
	富	前	尾	荒	橋	森	上	林	前	田		好	井	内	井	西	木	井	上	田	島		
	永	浦	崎	井	本	野	野		浦	村		和	博	敏		雅	英	光	清	正			
	章	正	利	賢	圭	賢	照	敏	芳	泰		義	司	魏	雄	亨	梵	之	次	仁			
	子	広	男	治	祐	一	文	彦	久	弘													

素	素	台	風	冬	舞	残		白	閉	△	子	寸	凶	夜	湖	阿	精	折	反	△	茶
麵	麵	風						壁	い	入	プ	女			の	波	靈			準	
の	を	一			台				園		ル	者			の	踊	流		特		
里	つく							丘	前	選	コ	景		の	幻	夜	し	願	映	選	昆
で	る	過	痕	日	裏	照		堀	納		宮	前	荒	長	朝	想	上	古	掘		森
		る		関		古		堀	田		城	坂	井	谷	中	小	野	井	完		
				口		井		完	康		高	坂	謙	賢	昭	松	照	謙	完		
〃	〃	〃	〃			謙		治	雄		士	俊	文	進	男	剛	文	吉	治		卓
				務		吉					登	彦				豊					史

暮	富	暮	晩	登	落	大	冬	祈	チ	境	遍	落	帰	ウ	菊	晩	飛	漁	視	ひ	東	精
れ	良			り	谷	街	の		ッ				り	エ	花				ま	大	靈	
る	野								ブ					ディ	展	蝶			わ	寺	流	
	の								工					ン	の					寂	し	
	印													グ	日		秋	ふ	火	線	光	
	象	色	夏	窯	葉	焼	海	願	場	内	路	雷	道									
篠				田	葛		安	難	倭	川		板	北	山							森	上
原	〃	〃	〃	中	川	〃	長	波	上	〃	東	川	下		〃	〃	〃	〃	〃	〃	野	
				昭	正		義	恒	た		敏		佳								賢	照
元				男	明		剛	勝	か		晴	麦	宣								一	文

ど	落	秋	夕	追	漁	驟	ひ	渦	偶	光		光	初	秋	阿	街	海	サ	落	し	或	黄	秋	日
ろん	慶	の					る	然			跡	夏	の	波	角						昏	昏	ぐ	
この	の	山		華			さ	の	飛			野	辺	彩	お	の	阿	ン		じ	る	ど	れ	
青春	朝	里	月	憶	火	雨	が	沫	景			彩	彩	想	ど	り	鳥	バ	花	ま	刻	き	ど	
																							き	
	佐	井	尾	石	小	中				橋			田		田		田	宝	長	須			篠	篠
〃	野	内	浦	山	池	村				本			中		中		積	谷	見				原	原
〃	辰	春	元	正	良	敏				圭			富		節		辰	進	信				洋	文
	夫	行	彦	明	洋	雄				祐			美		雄		男	進	男				規	彦

赤	盛	力	昼	黄	た		植	リ	白	肖	若	巫	花	妥	光	シ	火	盆	祈	朝	香	祈	婦	御
			さ		い	鳥		ズ	ふ				葛		と	ル	踊			奈			田	
い			が		く	駅	ム	紳	く		夏				空	エ	り			ち			植	
					つ			士	ろ	者		女	蒲	彩	間	ッ	の			ゃ			祭	
光	秋	闘	り	昏	な		物	録	う	像			森		ト	花	頃			ん			道	
				日																る			り	
清	志	大	坂							増	和	森		小		前	兼	瀬					佐	
水	摩	久	田							田	田	住		西		坂	松	部					野	
定	時	保	穂								俊			啓		祥	英	弘					辰	
七	次	利	氏							寿	彦	博		三		文	徳	志					夫	
		昭																						

秋節ト		一	ス	体	狙	カ	少	心	夏	黄	躍	出	フ	つ	蕪	視	散	神	雨	飛	死
	ル		ト	育		モ		の					エ	く			花				
	ソ	蝶	ライ	祭									イ	ろ			(I)				
景句	一		プ	の	日	う	メ	年	映	日	昏	動	待	ス	い	進	線	り	後	翔	闘
			サ																		
前	森		マ					大	尾	里		佐	山	樽	宮	岩		秋	渡	清	
浦	"	"		見		"	"	野	崎		"	治	口	見	武	本	"	田	辺	水	
正	"	"		渡		"	"	利	精		利	"	元	健	忠		召	"	勝	定	
広	貢			良				武	男	平	弘	彦	義	仁	幸		旨		敏	七	
				治																	

漁	夏	う	信	祈	痛	若		幻	樹	一	夜	砂	海	公	ゴ	夏	ね	サ	よ	水	浜	群	軍	凝	
港		み						FACE	齡	九	の	原	衆	メ	の		フ	し			の				
寸		ね							百	踊	の	電	行	ン	夏	の	フ	こ			の				
									年	服	ち	く	話	ナ	女	こ	の	の	滴	女		れ	鶏	視	
									想	り	く	話	サイ												
宮	多								富	為	形	芝	久	川	吉				折	十	上	西	笹	本	川
城	田	"	"						永	貞	田	"	米	西	本	"	"	"	野	川	杉	岡	"	田	口
高	晴								仁	建	耕	嘉	健	由	武				理	富	大		勝	隆	
士	美								一	臣	一	一	雄	高	夫				悦	義	一	敏	義	敏	進

ギ	ヤ	ル	宮城	高士
漁	港	の	夜	〃
獲	おどりの	夜	物	〃
漁	〃	〃	〃	〃
影	坂東	鶴雄		
学	校	生	活	高田
				為一
出羽島の虎じいさん	〃	〃	〃	〃

〔審査評〕

高田 誠 三

ことしは新しい表現に挑戦した意欲作が目立った。好感度フィルム、多彩な印画紙、水中カメラ、ペーパー・ソラリゼーションなど、写真の新機材、新技法をうまく使いこなし、表現したいものを自在に映像していた。一方、被写体の魅力を忠実に再現したものの中にも優れた作品があった。要は、見る者の胸を打つかどうかだ。周囲の人間生活にまなざしを向けた作品も、もつとあつていい。

個々の特選作品について。富永章子「ヒコキ雲」は、飛行機雲とポーズをとった子供をうまく空間に配置し、大空の賛歌が聞こえてくる。前浦正広「光景」(組み、カラー)は、水中の未知の世界を幻想的に映像化した、実にうまい作品。光を浴びた水中の落葉とザリガニの組み合わせに対比の妙がある。

荒井賢治「からす」(組み)は、河原をいたずらっぽく飛び回るカラスに物語が感じられ、作品のカロスの愛情がにじむ。駆使したテクニクを感じさせない強さがある。上野照文「怪魚」(組み、カラー)は、周囲を焼き込む白黒の技法をカラーに応用することによって、隠棲する魚の無気味さを巧みに引き立たせている。

尾崎利男「一日」(組み)は、着想がいい。牛も家族の一員であるような老夫婦の営みが温かく伝わる。森卓史「茶毘(だび)」は、正道派の秀作。うなだれたおばあちゃんの心情が痛いほど伝わる。

森賢一「けし」(カラー)は、ケシの花の心が写っている。何とも言えない色のハーモニーが、見る人によってさまざまな感情を誘う。橋本圭祐「神秘的瞳」は、ネコが何かを凝視する感じを出したかっただろう。ペーパー・ソラリゼーションの技法によって周囲をぼかし、ネコの目だけをリアルに強調した点に、新しさ、うまさがある。